

韓国 園芸作物を「K輸出」として振興

The Korea Times 2023年8月13日

イチゴ、ブドウ、モモ、カキが人気

農業省(正式名称は「農林畜産食品部」)傘下の農村振興庁(RDA)は月曜日、韓国は、高品質で健康的で新鮮な農産物として、国内で栽培される園芸作物の強化を計画していると発表した。

同機関の取り組みを支えているのは、韓国の文化製品、すなわちK-POP、映画やその他のエンターテインメント産業の人気世界的に高まる中、それが韓国製の食品やスナックにまで及んできていることである。

農産物の輸出額は昨年、前年比3.1%増で史上最高の88億2千万ドル(11兆5千億ウォン)となり、農産物輸出品目のトップ50にランクインした39の園芸作物がかなりの役割を果たした。39の園芸作物には、イチゴ、ブドウ、モモ、カキが含まれる。

イチゴは最も人気のある輸出品目の1つであり、爆発的な輸出の成長を生み出し、国内で育成されたイチゴ品種が初めて輸入品種を上回って以来20年足らずで達成された偉業である。

韓国では、2005年にはイチゴ品種の90%以上が日本等の海外品種で、30億ウォン以上のロイヤルティを支払った。当時、国内で育成されたイチゴ品種は市場の9.2%しか占めていなかった。

しかし、韓国品種のイチゴの市場シェアは、2010年には61.1%となり、昨年は96%に急上昇した。

300人の農業生産者と1千人の消費者を対象とした国の機関による2021年の調査によると、イチゴ品種の国産化は、過去60年間で成功した農業分野の取組リストのトップであった。

RDA(「韓国」の誤りと思われる。)は、合計5,760万ドル相当のイチゴを香港、シンガポール、ベトナムに輸出した。

同庁は、韓国のイチゴ品種は、その優れたしっかりした外観、蜂蜜のような味、豊かなモモの香り知られるとしている。周年輸出のため、今後より多くの品種が導入される。

ブドウは劇的な転換を見せた輸出品であり、これは韓国産のシャインマスカットがチリ産のブドウに勝っていることに最もよく表れている。

韓国・チリ自由貿易協定(FTA)が2004年に発効し、主にチリから輸入された安価な農産物が(国内産と)同じくらい風味が良いため、韓国内の多くのブドウ農家が懸念した。

しかし、多くの生産者は、その甘い味、より長い貯蔵性と香りによって肯定的な消費者レビューを獲得している新しい品種、シャインマスカットに切り替えた。

国内のブドウ生産は2000年以来減少傾向にあったが、2020年には回復することができた。ベトナム、香港、米国へのブドウの年間合計輸出額は、2022年の時点で3,320万ドルに達した。

モモも国内外で高い需要がある。2022年には、合計370万ドル相当が香港、シンガポール、インドネシアに輸出された。

RDAは(原文のまま)、国内の電子商取引企業から仲介された予約注文を受け取り、収穫後すぐに輸出する。

タンジェリンの新しいプレミアム品種は、ウィンタープリンスとして知られ、その高い糖度とジューシーな味が特徴である。ウィンタープリンスのシンガポールへの輸出は昨年大成功を収め、わずか3日間で192箱が完売したことがそれを証明している。

RDAは、旧正月に向けた需要によりよく対応するために、今年度下半期に輸出を拡大する予定である。

執筆者: イ・ギョンミン